

インターバンクの声（2016年11月16日）

相場には様々な格言があるが、大方の予想を覆してトランプ候補が勝利した大統領選以降のドル円相場では、まさに「もうはまだなり、まだはもうなり」を思い知らされるような展開が続いている。勿論、格言など関係なく、思い通りの展開だと勝ち誇っている投資家もいるかも知れないが、自分の周りでドル円が108円を越えて以降にドルを積極的に買い進めることが出来たディーラーは少ない。先週の大統領選当日、結果が判明し始めた東京市場で101円台前半まで下落したドル円は、同日の海外市場で下落前の水準を回復。その後、ドルは何回か小幅反落したものの、ほぼ直近の109円台前半までドル買いが続いている。

最初は、トランプ次期大統領の勝利スピーチで先々の不安が軽減され、むしろ期待感が広がったご祝儀的な買いムードが強かったのかも知れないが、107円台に乗せてからの上昇は趣が少し変わって来た。当面戻ることが難しいと思っていた水準までドルが戻したことで、ドル売り需要も増えるはずとの読みもあり、ドル売りのポジションを作る人も増えたが、利食いを入れる前に再びドルが上昇し始めることの繰り返した。さすがに109円台前半は、テクニカル面でもドルを売りたいくなる水準に来ていると思うが、107円を越えてから「もう良いだろう」と何度も思っている。まだ売るのは早いかもしれない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。